

HYOGO INTERNATIONAL ASSOCIATION

# COME HIA

カムヒア

2020.3  
VOL.

99

いつ起こるか分からない災害に備えて  
**兵庫県・播磨広域  
合同防災訓練に  
外国人住民が参加!**

発行・問い合わせ:(公財)兵庫県国際交流協会

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 国際健康開発センタービル2階 TEL 078-230-3260 URL <http://www.hyogo-ip.or.jp/>  
Hyogo International Association International Health Development Center, 2nd Floor, 1-5-1 Wakinohamakaigan-dori, Chuo-ku, Kobe, Hyogo 651-0073 JAPAN



## 地域に住む外国人が防災訓練に参加

# 自然災害の恐ろしさや避難所の利用法を学ぶ



1 たつの市国際交流協会から、「やさしい日本語」で避難所の説明を受けました



「避難所登録カード」に記入



3 起震車で震度7を体験。経験したことのない揺れにびっくり

2019年9月1日、たつの市体育館と揖保川河川敷を会場に兵庫県・播磨広域合同防災訓練が開催されました。その中でHIAは、たつの市国際交流協会と合同で外国人在住者向けの防災講座を実施。技能実習生を受け入れている企業の参加もあり、当日は30人を超える在住外国人が参加しました。

参加者は、まず、「やさしい日本語」で地震や大雨についての説明を受け、続いて、市の担当者によるミニ防災講座で災害時に利用する避難所について学習しました。その後、関連機関のブースで心肺蘇生法や段ボールベッド作り、起震車で震度7を体験。「災害とはどのようなもので、どう対応、準備すればよいか」について、楽しみながらも真剣に学習しました。外国人住民にとって、災害への備えの重要性を改めて認識できた貴重な一日となりました。



#### 4 段ボールベッドに寝てみました

多言語通訳・翻訳ボランティアが研修会に参加

# 災害時に必要な通訳スキルを学ぶ

HIAでは多くの方に「多言語通訳・翻訳ボランティア」としてご登録いただいており、災害時には、国際交流協会や行政が設置する災害時多言語支援センターや避難所における巡回活動についても通訳等の協力をお願いすることになります。2月16日には、同ボランティアの皆さんを対象に、災害時通訳・翻訳ボランティア向け研修会を開催。災害時における外国人への情報伝達方法の講義や、想定される相談内容を中心としたロールプレイなどを実施しました。

講師のNPO法人多文化共生マネージャー全国協議会の大久保雅由氏からは、実体験に基づく他地域の取り組みや災害時に役立つ用語などを教えていただき、参加者は実際の現場で必要なさまざまなことを学びました。



大久保氏は東日本大震災や  
熊本地震の被災地で外国人  
支援に携わりました

## 通訳のロールプレイ 訓練の様子

Pick UP!

## 日仏交流コーディネーターが

### 交代しました

新コーディネーター

2021年は兵庫県・セーヌ・エ・マルヌ県交流30周年を迎える年なので、それに向け、両県交流の架け橋として一年間頑張ります!



同僚とオフィスにて

HIAは、毎年、フランスのセーヌ・エ・マルヌ県経済観光公社(SMA)に研修員としてコーディネーターを1人、1年間派遣。そして、セーヌ・エ・マルヌ県からの研修員を2人、夏に受け入れています。この人物交流は1991年から約30年間続いています。2019年10月にコーディネーターが交代しましたので、それぞれのコメントを紹介いたします。

旧コーディネーター

1年間の研修では、教育機関での日本文化や日本語の講義、日仏交流のイベントでの兵庫県やセーヌ・エ・マルヌ県の観光情報等の発信を通して、両県については日本とフランスの関係強化に貢献できたと思います。文化や考え方の違い、またいろいろな人との出会いから貴重な経験を得ることができました。



パリ事務所とともに兵庫県をPR

### 総領事館シェフから

### 韓国料理を学びました



調理実習の様子



タコ炒めと  
タコチャプチエ  
(第1回)



カンジャンケジャン  
(第2回)

HIAは友の会事業として、世界各国の料理を味わい食文化を学ぶ「食文化交流教室」を毎年開催しています。

2019年度は、駐神戸大韓民国総領事館と兵庫県との共催により、「総領事館シェフと一緒に作る韓国料理教室」を2回行いました。第1回は5月31日に潮芦屋交流センター(芦屋市)で明石ダコを使ったタコ炒めとタコチャプチエ、第2回は12月6日に兵庫県立神戸生活創造センター(神戸市)で瀬戸内産活きワタリガニ(ガザミ)のカンジャンケジャン(カニの醤油漬け)とヤニヨムケジャン(カニのソース和え)を作りました。新鮮なタコとカニの用意には兵庫県漁業協同組合連合会にご協力いただきました。当日、参加者は総領事館の柳シェフから韓国料理の講義を受け、料理教室を楽しみました。

# 災害時の外国人支援の在り方を考える 「災害時外国人支援セミナー」を開催



「外国人も支援者側になりうる」という話も

2019年11月29日、神戸市内のラッセホールで、一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事の田村太郎氏を講師に迎え、「災害時外国人支援セミナー」を開催。「災害時の外国人支援について、国際交流協会・行政に求められる役割」をテーマに講演いただきました。

同氏から、「災害発生時のみ情報提供しても駄目。前もって外国人にも災害教育・訓練をして知識や情報をストックさせておくことが重要」「大規模災害時では、外国人は市町の境に関係なく移動・避難する。一つの自治体だけで考えるより近隣の行政・協会が一緒に考えてするのがよい」などのアドバイスを頂きました。災害時の外国人支援については、国際交流協会単体、また、行政だけで対応できるものではありません。関係部署が連携して取り組むことの重要さを、認識することができました。

## ひょうご国際交流団体連絡協議会 活動紹介

### 「やさしい日本語」について理解を深める講座や 多言語通訳・翻訳ボランティアの研修を実施

2018年から実施している「やさしい日本語講師派遣制度」。近年、在住外国人の増加とともに「やさしい日本語」のニーズがますます高まっています。本年度、この制度を利用した県内国際交流団体は昨年度から約3倍に増加しました。

HIAでは、2019年9月、神戸大学名誉教授の水野マリ子氏を講師に迎えて、「やさしい日本語」講座を開催しました。「やさしい日本語」の成り立ちの講義後に、実際に「やさしい日本語」に訳すグループワークを行い、参加者はさらに理解を深めました。



事例を通して  
通訳倫理について  
理解を深めました



「やさしい日本語」を基礎から学びました

また、多言語通訳・翻訳ボランティア対象の研修では、本年度は2019年10月に加古川市国際交流協会と共に「コミュニティ通訳ボランティア講座」として開催しました。講師の飯田奈美子氏((公財)京都市国際交流協会行政通訳・相談事業コーディネーター)から、コミュニティ通訳者の特徴や役割、通訳倫理について講義を受けました。

両講座ともに、外国人とコミュニケーションを取るに当たって、言語のスキルだけでなく幅広い知識が必要であることを改めて認識する機会となりました。

# 日本語学習支援に関する 研修会を開催しました



多くの参加者が熱心に耳を傾けました

外国人県民が安心して生活できるよう日本語学習支援環境を整えることを目的に、地域で活動する日本語支援者の皆さんとともに学び、考える研修会を開催しました。

1/  
13

外国につながる子どもへの日本語・学習支援を考える研修会  
会場：国際健康開発センター

**第1部 「心ある伴走者を目指して  
～さぼうと21学習支援室の実践～」**

矢崎 理恵氏  
(社会福祉法人さぼうと21  
コーディネーター)

**第2部 「教科につなぐための体系的な  
日本語学習のすすめ」**

志村 ゆかり氏  
(関西学院大学 講師)

第1部では、講師からの実践紹介を通して子どもたちのライフコースを見据えた支援活動について考えました。また、第2部では、それぞれの子どもたちの現状に応じてサポートするために必要な日本語教育の体系化と日本語総合教科書の有効性について、学ぶことができました。



講師による事例紹介

1/  
25

実践持ち寄り会

会場：国際健康開発センター

県内の12の日本語支援団体が、それぞれの活動についてポスター発表を行いました。会場内では発表者を囲んで活発な意見交換が行われ、交流コーナーは地域や教室の枠を超えた情報共有の場となりました。



学習者からの発表も

1/  
25  
・26

地域に根ざした日本語支援を考える研修会

会場：国際健康開発センター(1/25)/姫路市市民会館(1/26)

**「日本語教室をのぞいてみると  
～見えるもの、気づくこと、できること～」**

金田 智子 氏  
(学習院大学 教授)

講師が各地の日本語教室の活動を分析した結果から、地域の教室で共通して起こっているエピソードを題材に、自分たちの活動を振り返りました。さらに、グループに分かれて理想の日本語教室・日本語学習支援者について考えました。



多くの気づきがあり、自分自身の活動を振り返る機会となりました

1/  
26

ICT教材活用研修会

会場：姫路市市民会館

三宅 直子 氏

(独立行政法人  
国際交流基金関西国際センター  
日本語教育専門員)

**「地域日本語教室におけるICTの活用  
～[JFほんごeラーニング みなと]を中心に～」**

日本語学習を必要とする外国人が、いつでも、どこでも日本語を学べるように、ICT教材の開発が進められています。今回は、国際交流基金のオンライン自習コース、WEBサイトやアプリについて説明を聞き、実際にスマホやパソコンを使って体験しました。



多彩なコンテンツを実際に使ってみました



## アメリカ人外交官が講師を務める 総領事カフェ in Kobeを開催



2019年11月15日、HIAにおいて、駐大阪・神戸米国総領事館と共に「総領事カフェ in Kobe」を開催しました。これは、同総領事館が大阪を中心定期的に開催する「総領事カフェ」の神戸版。アメリカ人外交官3人が講師を務め、今回のテーマ「プラスチックごみによる環境問題」について参加者と共に考えました。

参加者はまず講師のプレゼンテーションを聞き、その後グループごとに与えられたお題を基にディスカッション。話し合いには講師も加わり、熱い議論が展開されました。最後には、話し合った内容を各グループの代表が発表し、発表が終わると自然に拍手が起きました。

英語を話すのが好きという人、環境問題に興味があるという人など、参加のきっかけはさまざまでしたが、みんなコーヒーやお茶を片手に、英語での知的なひとときを過ごしました。



講師の呼び掛けに元気よく答える参加者



グループでディスカッション



グループで話し合った内容を発表

＼参加者と講師がそろって「ハイ、チーズ！」／



## マチュピチュ村の開拓に貢献した 日本人移民について学ぶセミナーを実施

2019年11月30日、JICA関西と共に、2019年度第2回国際協力入門セミナーを実施しました。今回のテーマは、ペルー日本人移民120周年の機会を捉え、「マチュピチュ村を拓いた男—野内与吉とペルー日本人移民の歴史」。現在は観光地として有名なマチュピチュ遺跡近郊にあるマチュピチュ村の開拓に貢献した日本人移民、野内与吉氏について、孫に当たる野内セサル良郎氏が講演しました。



多くの参加者が講演に聞き入りました



講師の著書やペルー関連商品が並んだ販売ブース

セミナーでは、まず初めにJICA関西の職員がペルーへの日本の国際協力について説明を行い、次に野内与吉氏について特集された番組「世界ふしぎ発見！」のVTRを鑑賞しました。講師の野内セサル良郎氏はセミナーの後半に登壇し、ペルー日本人移民の歴史と祖父、与吉氏の功績について、長年続けてこられたご自身の研究を基に、貴重なお話をくださいました。

会場では、講師自筆の与吉氏についての研究書やペルー伝統工芸品も販売。70人近くの参加者からは、「マチュピチュ村開拓の歴史とセサル良郎氏の熱意ある研究に感銘を受けた」という声が多く聞かれました。



お年玉袋(利是封)専門店

## 香港のお年玉事情

旧正月を祝う香港、2020年の元旦は1月25日。2019年は何かと騒がしいことがありましたが、お正月が近づくと街中が赤や金の装飾で華やぎます。香港でもお年玉を渡す習慣があり、利是と呼びます。ただ、日本とは少し事情が異なります。

家族、親戚に渡すのはもちろんのこと、会社の部下、マンションの管理人、オフィスビルの受付スタッフなどにも配ります。また、既婚者は独身の友人や同僚にも配ります。

この時期、マンションの出入口付近にはいつもと違う管理人や日頃見かけない清掃スタッフが出てきて、何かを期待しながら待ち構えています。利是を獲得するために、普段不愛想なオフィスビルのスタッフは満面の笑みで新年のあいさつをして、エレベーターまでついてきてボタンを押してくれます。

お年玉袋(利是封)のリサイクルボックス



香港事務所長  
和田 博文



縁起物の金柑の鉢植え

日本と異なるユニークな習慣ですが、新参者の私にはカルチャーショックでした。これに慣れた人はポケットティッシュやチラシを配るようにスマートに渡しています。

1人当たりの金額は20~50香港ドル(約300~750円)ですが、気付かないところでお世話になっている人に対して、1年に1度、このような形で感謝の気持ちを表すのも悪くないと思いました。なお、職場の部下には、100香港ドル程度(約1,500円)渡さないとケチと言われる可能性が高いようです。

ひ ょ う ご の  
仲 間 た ち



## 子どもたちが自分らしくいられる居場所であり続けたい

こうべ子どもにこにこ会の「スペイン語母語支援教室」が行われる神戸市立本庄小学校の会議室の入り口には「Amigosともだち」と書かれています。風が冷たい2月の火曜日の午後3時、早く着いた子どもたちに、先生が「今日、○○ちゃんは来る?」「宿題は終わった?」と優しく話し掛けます。

同教室は、ラテンアメリカから来日した子どもの母語の保持・育成の支援のため2002年に開設されました。子どもたちがアイデンティティーを保持し、自分自身の文化に対する誇りを持てる環境づくりを目指し、地域と一緒に20年近く取り組んでいます。

教室に通う子どものレベルは、スペイン語よりも日本語の方が得意だったり、スペイン語で話すことはできても読み書きが苦手だったりと、さまざま。先生たちは子どもの指導経験が豊富なベテランばかりなので、レベルに合わせて、読み聞かせをしながら聞く力を伸ばしたり、ゲームをしながら楽しく語彙を増やしたりと、工夫を凝らして教えています。

日本語の環境に身を置いていると日常会話以上の母語力の必要性を感じることが難しくなり、教室への参加のモチベーションも下がりがちです。そんな中、「子どもたちが毎週楽しいと通ってくれるのはうれしい」と事務局長の松下さん。最近は保護者の母語学習に

こうべ子どもにこにこ会



対する理解も深まってきています。

通い始めた頃は恥ずかしそうに緊張した様子の子どもも、ルーツがスペイン語圏でつながるクラスメートたちとすぐに仲良くなり、伸び伸びと学んでいます。同様の経験をしてきた先生たちは子どもたちの気持ちが手に取るように分かるそうです。「言葉だけでなく、自分のルーツを大切にしてほしい」と藤戸先生は話します。地域と一緒に、子どもたちが自分らしくいられる居場所として、これからも活動を続けていきます。



こうべ子どもにこにこ会では、子どもが大好きなスペイン語指導経験者(日本語も話せる人)を募集しています。

こうべ子どもにこにこ会  
TEL 078-453-7440  
Eメール kobekodomo\_nikonikokai@yahoo.co.jp



## 韓国の伝統工芸品 メドップを紹介

2019年11月5日から19日まで、ひょうご国際プラザ交流ギャラリーで「韓国伝統工芸 メドップ展示会～紐が奏でる芸術～」を開催しました。メドップは朝鮮半島で発展した手工芸で、1本の紐から作り上げられます。本展では、色鮮やかな色糸で緻密に組まれた作品が展示され、来場者を魅了しました。

開催期間中の8日と15日には、メドップによるピンブローチ作りのワークショップが計4回開催されました。神戸でメドップ教室を営む裴富子さんをはじめ大勢の講師陣による丁寧な指導の下、参加者は好みの色糸を使い、それぞれに素敵な作品を完成させることができました。



ワークショップ  
の様子



## 中学生3人が 国際交流の職場を体験！

2019年11月11日から15日までのトライヤル・ウィーク期間中、神戸市立中学校2校(御影、太山寺)から3人の中学2年生を受け入れました。

中学生たちは、外国人に教える「やさしい日本語」の話を聞いて多文化共生の大切さを認識したほか、元日仏交流コーディネーターからフランスとの交流について説明を受けたり、JICA関西で元青年海外協力隊員から中南米での体験談を聞いたりして、国際交流・協力について学びました。また、ひょうご国際プラザで図書館の書庫整理や製本手伝い、イチオシ本の図書ポップ作成等の根気のいる仕事も頑張り、将来につながる充実した5日間を過ごしました。



日本語の教材を  
見比べて意見発表

## EVENT CALENDAR

2020 HIA イベント カレンダー (予定)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	◎外国人県民対象日本語 講座1期 受講者募集 [プラザ図書展示] 国際協力ってなんだろう?	◎外国人県民対象日本語 講座1期 開催 [プラザ図書展示] 旅に出よう	◎ひょうご国際交流団体 連絡協議会総会 [プラザ図書展示] ロシア特集	◎すぐに役立つ日本語講座 受講者募集 [プラザ図書展示] いざ! 東京オリンピック	◎パラナ州友好提携50周年記念・ 県民交流団(予定) ◎すぐに役立つ日本語講座 開催 [ギャラリー展示] 北方領土展 [プラザ図書展示] 世界のお祭り	◎外国人県民対象日本語 講座2期 受講者募集 [プラザ図書展示] スペイン特集

※イベント内容は変更になる場合がありますので、ホームページで確認してください。

